令和８（2026）年 10 月９日

阪南大学内部質保証推進委員会
委員長　平山　弘

外部評価に対する本学の改善・対応状況について

令和８（2026）年度に実施した外部評価において、松原市役所様から、本学の「地域社会との連携強化、イノベーション・コモンズ（共創拠点化）の整備」に対する評価およびご助言をいただきました。

松原市役所様からは、本学が自治体・企業・地域団体等との連携を通じて、地域課題の解決や地域活性化に向けた取組を幅広く展開している点、社会連携活動制度について年間を通じた募集を行うなど制度運用の柔軟性・継続性を高めている点、まつばらマルシェ、松原ブランド研究会、KLLP 等の産学連携、南河内地域における広域連携の取組について評価をいただきました。

一方で、本事業の中核であるイノベーション・コモンズについては、関係部署との協議等は進められているものの、物理的・仮想的なスペースの確保や具体的な運営体制の構築には至っておらず、今後の具体化が期待されるとのご指摘をいただきました。

本学では、これらの評価およびご助言を踏まえ、担当である社会連携委員会から提出された回答案を確認し、内部質保証推進委員会として、今後の改善に向けた確認事項を次のとおり整理しました。

１．評価対象事業

項目	内容
評価対象事業	地域社会との連携強化、イノベーション・コモンズ（共創拠点化）の整備
外部評価機関	松原市役所
担当部局自己評価実施委員会	社会連携委員会
学内取りまとめ	内部質保証推進委員会

２．外部評価結果の受け止め

松原市役所様からは、本事業について、評点４（優れている）の評価をいただきました。地域社会との接点を着実に広げている点や、松原市との連携を含む各種取組が、地域課題の解決や地域活性化に資するものとして評価されたことは、本学としても大変意義のあるものと受け止めています。

特に、松原ブランド研究会、まつばらマルシェ、KLLP 等の産学連携、南河内地域の広域連携など、地域との具体的な連携活動が評価されたことは、本学がこれまで進めてきた社会連携活動の方向性が、地域行政の観点からも一定の意義を有するものとして確認されたものと認識しています。

一方で、イノベーション・コモンズについては、構想段階から具体的な運営体制やスペース整備へ移行することが課題であるとの指摘をいただきました。本学としては、この指摘を今後の検討課題として受け止め、既存の地域連携活動で得られた知見やネットワークをどのように集約し、地域課題の共有や具体的事業への接続につなげていくかについて、社会連携委員会および関係部署において検討を進める必要があると認識しています。

３．本学の改善・対応方針

（１）イノベーション・コモンズの具体化について

社会連携委員会からは、イノベーション・コモンズについて、現在、学内で運営体制の具体化に向けた議論を行っていること、現時点では物理的な施設やスペースといったハード面の整備ではなく、本学の教育・研究・社会貢献の実績をデータベース化し、学外に分かりやすい形で提示するシステムの構築に取り組んでいることが報告されています。

内部質保証推進委員会としては、この方向性を確認するとともに、今後は、当該取組が単なる情報整理にとどまらず、地域課題や連携ニーズとの接続にどのようにつながるのかを明確にしていく必要があると考えます。

そのため、社会連携委員会および関係部署において、イノベーション・コモンズを、当面どのような機能を持つ仕組みとして具体化するのか、また、どのような体制で運用していくのかについて、引き続き検討することを求めて参ります。

（２）社会連携活動制度の見直しについて

社会連携委員会からは、産官学連携促進を牽引する社会連携活動制度について、現在リニューアルを進めており、今後さらに教育・研究の垣根を取り払い、多様な形で地域の課題に対応する体制づくりを進めていることが報告されています。

内部質保証推進委員会としては、社会連携活動制度の見直しにあたって、単に活動件数を増やすことだけではなく、各連携事業の目的、役割分担、期待される成果を整理し、事業実施後の成果や課題を次年度以降の取組に活かす仕組みを検討することが重要であると考えます。

今後、社会連携委員会において、社会連携活動制度のリニューアルの内容と、イノベーション・コモンズの構想との関係を調整するよう求めて参ります。

（３）地域課題と大学の教育・研究活動を接続する仕組みについて

松原市役所様からは、イノベーション・コモンズに期待される機能として、地域課題や行政課題を共有する情報交換の場、学生が地域課題について学び、企業や行政とともに解決策を考える人材育成の場、大学の専門的知見と地域・企業のニーズをマッチングする場、連携事業の成果を発信する場といったご提案をいただきました。

社会連携委員会からは、イノベーション・コモンズを単なる交流の場ではなく、具体的な事業を通して新たな価値を創出する仕組みとなるよう設計を進めること、また、定期的な情報共有・情報交換を行う会議体の設定等について検討していることが報告されています。

内部質保証推進委員会としては、松原市役所様から示された上記の機能について、今後の制度設計において参考とし、地域課題と大学の教育・研究活動を接続する仕組みとして具体化できるよう、社会連携委員会において引き続き検討することを求めて参ります。

（４）今後重点的に取り組む連携分野について

松原市役所様からは、今後重点的に連携を進める分野として、地域産業・商業振興、観光・地域資源の発信、若者の地域への関わり、防災・地域コミュニティ等についてご提案をいただきました。

社会連携委員会からは、地域産業の振興、若年層を意識した活動、防災・地域コミュニティへの関与などについて、今後の連携の方向性として受け止めていること、また、南大阪広域連携の取組について、松原市及び松原市観光協会と連携しながら進めていることが報告されています。

内部質保証推進委員会としては、これらの分野が、学生の実践的な学びと地域課題の解決を接続する重要なテーマであることを確認しました。今後、社会連携委員会において、既存の連携活動との関係を踏まえながら、どの分野を優

先的に取り上げるか、どのような形で松原市等との連携につなげるかについて検討することを求めます。

（５）成果検証と情報発信について

松原市役所様からは、地域連携活動の件数だけでなく、連携によって地域課題がどの程度解決されたか、学生の学びや成長にどのような効果があったかなど、活動の成果を具体的に把握・発信する仕組みを整えることが重要であるとのご助言をいただきました。

社会連携委員会からは、今後新たな社会連携活動の仕組みを構築する上で、学生の学びから社会参加へ、地域課題の発見から地域貢献活動へ、最終的に地域の実効的な課題解決につながる継続的・発展的な活動を喚起する仕組みとなるよう検討を重ねていること、また、活動の成果を客観的に把握し、検証する仕組みづくりについても着眼していることが報告されています。

内部質保証推進委員会としては、今後、活動件数のみを成果として捉えるのではなく、地域課題への貢献、学生の学修成果、連携先からの評価等を含めて、成果をどのように把握・検証するかについて検討する必要があると考えます。

４．今後のフォローアップ

本件については、内部質保証推進委員会において、外部評価結果および社会連携委員会からの回答案を確認し、上記のとおり今後の改善に向けた確認事項を整理しました。

今後は、社会連携委員会および関係部署における検討状況について、次年度以降の自己点検・評価および事業計画の中で確認します。

５．公表について

本改善・対応状況については、松原市役所様へ説明のうえ、外部評価結果および外部評価票とあわせて、本学 Web サイトにおいて公表します。

以上